

2005年7月1日
日本銀行山形事務所

全国企業短期経済観測調査結果（2005年6月調査）
山形県内分

1. 業況判断 前回3月調査比横ばい。先行きは改善の予想（3月 18
6月 18 9月 9）

製造業：輸送用機械が外需鈍化懸念から悪化したものの、食料品がペットボトル飲料の販売好調から改善したほか、電気機械もIT関連分野の在庫調整の進展や新製品向け受注等の回復から僅かながら改善に転じたため、5期振りに改善した。

先行きについては、食料品が原油高によるコスト増加懸念から悪化するものの、電気機械が在庫調整の進展や自動車向けの増加期待から更に改善しプラスに転じるほか、輸送用機械が内需増加期待から改善するため、引続き改善する予想（3月 15 6月 7
9月0）

非製造業：卸・小売が売上持ち直しから、情報通信がコスト削減効果から改善したものの、建設・不動産が受注減等から悪化したほか、電気・ガスが原油高による採算悪化から、運輸が競合激化から、それぞれ悪化したため、再び悪化した。

先行きについては、建設・不動産が受注増加期待から改善することなどから、改善する予想（3月 23 6月 32 9月 21）

2. 売上高・経常利益 2004年度は小幅の減収減益。2005年度は売上横ばいながら減益となる計画。

（2004年度実績）

製造業：売上高は食料品、輸送用機械が増加したものの、電気機械が減少したことから減収となった。経常利益は電気機械、食料品等が減少したことから1割方の減益となったが、前回調査比ではコスト削減努力等から1割方上方修正された（売上高 5.7%、経常利益

11.4%)

非製造業：売上高は運輸等が減少した一方、卸・小売が増加したことから前年度比ほぼ横ばいとなった。経常利益は運輸等が減少したものの、卸・小売が増加したことから1割方の増益となった(売上高+0.3%、経常利益+9.4%)

(2005年度計画)

製造業：売上高は輸送用機械等が減少する一方、一般機械等が増加することから前年度比ほぼ横ばいとなる計画。経常利益は食料品、輸送用機械が増加するものの、電気機械が大幅減となることから3割方の減益となる計画。なお、前回調査比では経常利益が2割方下方修正された(売上高+0.9%、経常利益 32.6%)

非製造業：売上高は建設・不動産が減少する一方、卸・小売が増加することから前年度比ほぼ横ばいとなる計画。経常利益は建設・不動産、情報通信が減少する一方、卸・小売、運輸が増加することから前年度比ほぼ横ばいとなる計画。なお、前回調査比では経常利益が1割方下方修正された(売上高 0.3%、経常利益 0.9%)

3. 設備投資 2004年度は前年度比約3割増となった。2005年度は約3割減となる計画。

(2004年度実績)

製造業：電気機械を中心に前回調査比大幅に下方修正され前年度比約3割増となった(+27.4%)

非製造業：運輸、情報通信の大口投資等から前年度比約3割増となった(+28.2%)

(2005年度計画)

製造業：前年度大型投資の反動から電気機械を中心に前年度比約3割減となる計画(32.5%)

非製造業：情報通信の大口投資一巡から前年度比約3割減となる計画(33.7%)

以上